令和８年度「全国学力・学習状況調査」及び「狛江市学習状況調査（NRT）」の結果について

令和８年10月
狛江市教育委員会教育部指導室

１　全国学力・学習状況調査

（１）調査実施日　令和８年４月23日（木）
※英語調査は４月20日（月）～４月27日（月）のうち、あらかじめ指定された実施日
（２）調査の目的
〇児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への学習指導の充実や学習状況等に役立てる。
〇取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
（３）調査対象・実施教科等
狛江市立小学校　第６学年児童　国語、算数、児童質問紙
狛江市立中学校　第３学年生徒　国語、数学、英語、生徒質問紙
（４）教科調査の結果と分析
ア　全体の傾向（令和６年度からの推移）【平均正答率（%）】　※（　）内の数値は東京都との差を表す

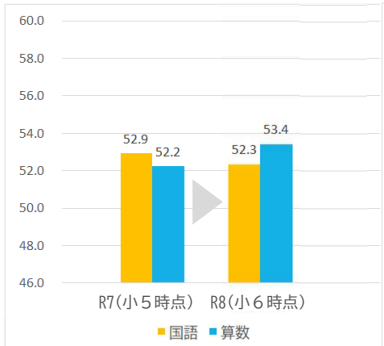
教科調査の推移（%等）		小学校　第６学年			中学校　第３学年		
		R６	R７	R８	R６	R７	R８
国語	狛江市	69（－１）	69（－１）	66（＋１）	62（＋１）	59（＋２）	70（＋２）
算数・数学	狛江市	67（－１）	64（±０）	64（＋１）	59（＋２）	58（＋５）	65（＋３）
英語	狛江市	中学校英語については、CBT調査により平均IRTスコアを記載する。					549（＋19）

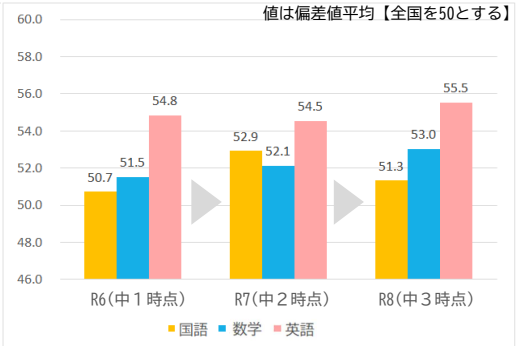
※IRT（Item Response Theory:項目反応理論）
…児童・生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童・生徒の学力によるのか、区別して分析し、児童・生徒の学力スコアを推定する統計理論⇒異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。

２　狛江市学習状況調査（NRT）

（１）調査実施日　令和８年４月９日（木）
（２）調査の目的
児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その結果を基に日々の授業改善を行い、児童・生徒の学力向上に資する。
（３）調査対象・実施教科等
狛江市立小学校　第５・６学年児童　国語、算数（２教科）
狛江市立中学校　第１・２・３学年生徒　国語、数学、英語（３教科）
（４）調査結果
（国語及び算数・数学は小学校第６学年及び中学校第３学年、英語は中学校第３学年を記載）

令和８年度小学校第６学年児童　及び　中学校第３学年生徒　における過去２年間または３年間の経年変化





イ　今後の授業改善につなげたい問題の正答率と指導の方向性　※（　）内は無回答率を示す　＜参考資料：「令和８年度全国学力・学習状況調査　報告書」（国立教育政策研究所）＞
▲正答率が４割未満（国語、算数・数学）のうち、選択肢回答ではない問題　かつ　主体的・対話的で深い学びの実装に向けた授業改善につながる問題を抜粋した。

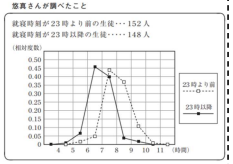
【小学校国語】
〔問題〕
花山さんは集めた情報をもとに「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを、続きに書いています。あなたが花山さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。
（□は意見文の書き出し）
＜条件＞
〇集めた情報の中から、本の題名と一部の内容を選んで、抜き出して書くこと。
〇ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。
〇抜き出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
〇140字以内にまとめて書くこと。

【出題の意図】
引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

狛江市	東京都（公立）	全国（公立）
35.0（6.3）	31.7（5.8）	28.0（5.2）

【指導の方向性】
・根拠となる情報を引用し、自分の考えと合わせて書くことで説得力が増す等、複数の文章を比較し、引用することの目的やよさを捉えられるようにすること
・引用する部分と自分の考えを区別して書くことができるようにすること及び引用する情報は、信頼でき効果的な情報かを確かめられるようにすること

【中学校数学】
〔問題〕
悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形（度数折れ線）を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの桃音さんのまとめを参考にして、次の説明を完成させなさい。



【出題の意図】
データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる。

狛江市	東京都（公立）	全国（公立）
34.3（18.2）	35.5（24.5）	31.9（28.9）

【指導の方向性】
・データから特徴や傾向を読み取って判断する際に、目的や方法、結論等を振り返って吟味し、批判的に考察できるようにすること
・目的に応じて分析方法を選択して問題解決することをとおして、度数分布表は箱ひげ図等の必要性と意味の理解を深めるとともに、今後の問題解決にそれらを適切に活用できるようにすること

【中学校英語】
〔問題〕
あなたは留学生のミン（Ming）と仲良くなるために、一緒にしたいことをクラスの友達と発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「ミンと一緒にしたいことを１つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を英語で話しましょう。動画内の【例】を参考にしてもかまいません。
【考える時間１分　解答時間30秒】



【出題の意図】
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。

狛江市	東京都（公立）	全国（公立）
66.7（2.1）	59.0（8.4）	53.5（11.3）

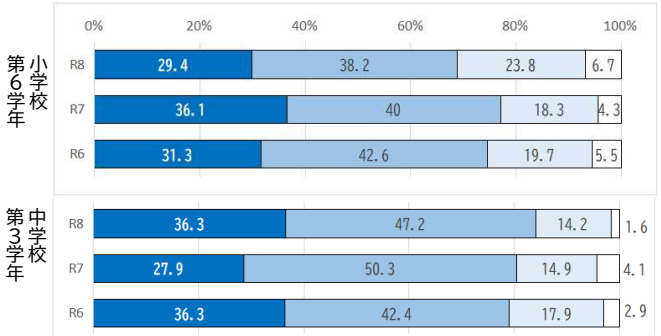
【指導の方向性】
・１～２文のやり取りから始め、自分の考えと理由を関連付けて話す活動を繰り返し、３～４文と徐々に発話する量を増やしていくこと
・１つのテーマに沿った発表を行ったり、内容に一貫性のあるスピーチに取り組んだりしていくこと
・単語だけの表現ではなく、文で発話できるようにする等、聞き手に伝わる表現で話せるようにすること

（５）児童・生徒質問紙調査の結果と分析（令和６年度からの推移）

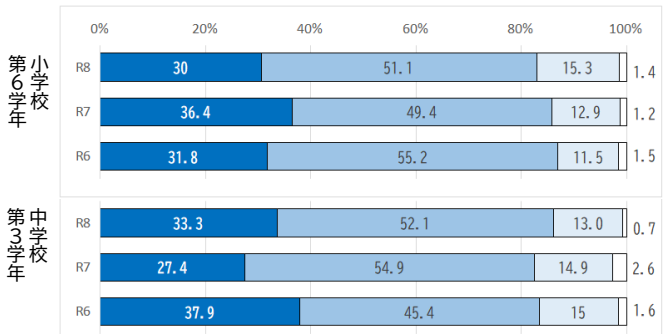
児童・生徒は【 ■当てはまる　■どちらかといえば、当てはまる　□どちらかといえば、当てはまらない　□当てはまらない 】の意で回答

ア　主体的・対話的で深い学びの視点から

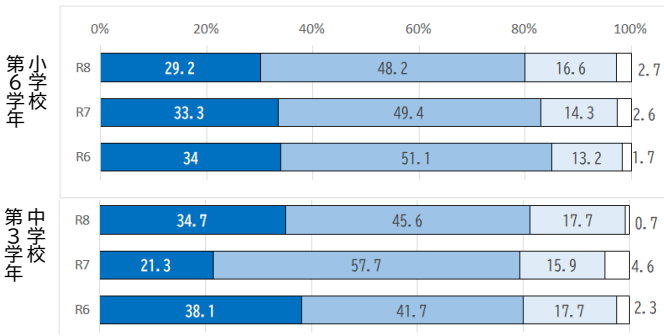
これまでに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



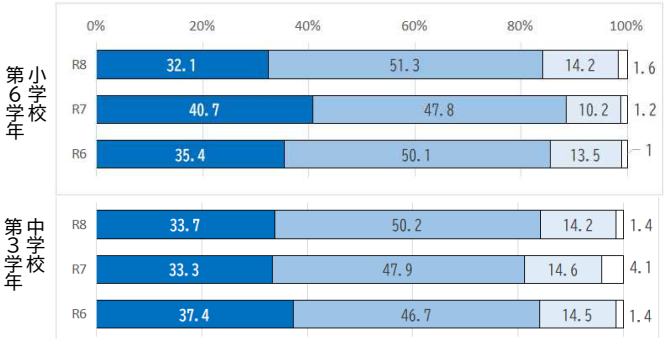
これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってしましたか。



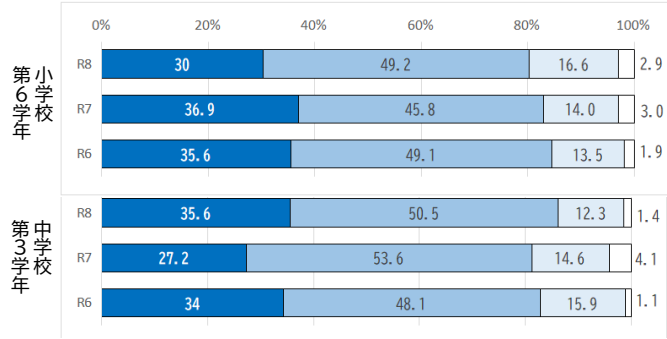
今回取り上げた設問について、肯定的に回答した層【■当てはまる　■どちらかといえば、当てはまる　と回答した層の合計】は概ね８割程度となった。特に中学校第３学年において、肯定的に回答した層は、令和６年度からの推移において、最大となった。今後の授業改善に向けて、中学校区でのゾーンを中心に主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、小中の連携の充実を図る必要がある。

イ　学びの主体的な調整の視点から

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



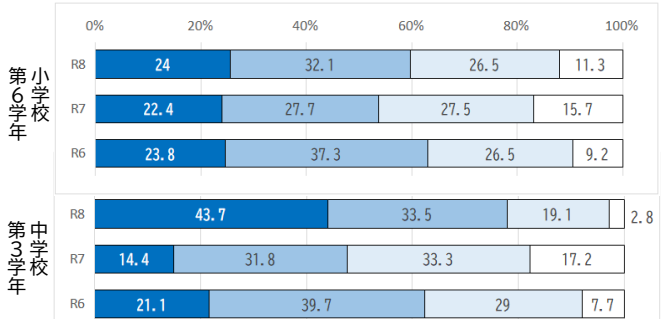
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



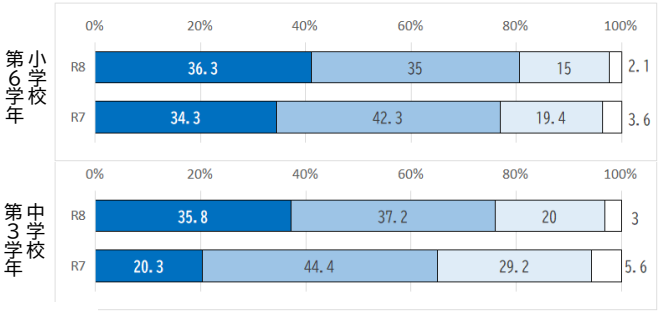
今回取り上げた設問について、肯定的に回答した層は８割を超えた。今後に向けて、児童・生徒自身が学びの主体となることができるよう、自己選択・自己決定するとともに次の学習につなげることができるよう、児童・生徒の学習改善を図る必要がある。

ウ　ICTを活用した学習状況の視点から

これまで受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。【Ｒ７新規】



左から順に「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）」「週３回以上」「週１回以上」「月１回以上」の回答（月１回未満は該当無のため削除）

３　分析

【各教科の結果から】

「全国学力・学習状況調査」及び「狛江市学習状況調査（NRT）」において、全ての教科で全国及び東京都の平均正答率を上回った。このことから、本市の学力について一定程度の基準を超えていることが分かった。しかし、自分の考えや、その理由を根拠に基づいて説明する等の問題において、課題が見られた。また正答率が４割未満の問題もあった。

これらのことから、根拠をもって説明する活動や多様な考え方を比較・吟味する活動等を効果的に取り入れる等して、各教科において学んだことが深められるよう更なる授業の工夫を図っていく必要がある。

【児童・生徒の質問紙調査から】

一人１台端末（iPad）を活用した授業については、特に中学校において、ほぼ毎日複数の授業で活用している等、活用率の上昇が見られた。更に端末を活用して情報を整理することについては小学校・中学校ともに上昇が見られた。しかし児童・生徒自身で学習内容を見直すことや、学び方を工夫することについては、否定的に回答した層が一定数いることが分かった。

これらのことから、児童・生徒の学びの質の向上に向けて、一人１台端末及び「ミライシード」の活用を図るとともに、ICT機器を活用した学習を質・量ともに充実させていくため、各学校における課題を把握し、計画的に学習指導の改善に取り組むことが求められる。